



放て! 未来への一矢



母校シリーズ(27)

「弓道部女子団体 全国大会3位入賞」



発行
福島県立
橋高等学校同窓会
(福島女子高等学校同窓会)

発行人
坪井有子

発行所
福島市宮下町7-41
電話(024)535-3395
FAX(024)535-3397

会員数
38,818名
(2021.3 現在)

母校創立124年



現在そして これからの同窓会活動

同窓会会長 坪井有子
(昭和41年卒)

この一年以上のコロナ禍の中で、私たちの日常生活がすっかり変わってしまいました。会員の皆様もそれぞれにコロナ禍の影響を受けておられることと拝察しております。同窓会の年間計画の最大行事である総会も、二年続けて懇親会を開催しない形となってしまいました。当番学年に当たる同窓生にとっては十年ぶりのことであり、楽しみにしていた方もおられたかとも思いますと残念で仕方ありません。それでも当番学年の代表者を迎えるの総会を開くことができ、安堵しました。本部の総会に各支部の代表者にご出席いただき、それぞれの支部の様子をお聞きすることが、同窓会の活動においてとても貴重なことなのです。しかし、その機会を二年続けてもつことができなかったことはとても残念です。各支部の総会もこの状況下では開かれず寂しい限りです。このパンデミックが収束した時には、また大勢の同窓生の出席者をお迎えしての総会が開かれま

すよう心から願っております。今、世の中はすごい勢いでIT化が進んでいます。コロナ禍がそれにいつそう拍車をかけたように思われます。オンラインでの仕事、学校、果ては飲み会等、直接対面しなくてもいろいろなことができることがわかって、その機能の便利さに驚きます。私も何度か体験しましたが、会場に行かなくとも自宅で参加できる利便性、遠方の人々ともすぐに画面越しでコミュニケーションが取れることなどが良い点だと思いました。これからの同窓会活動において、ITをどのように活用できるかを検討しなければとの意見も聞かれます。これからは男性の同窓生も増え、日中の集まりだけでは参加が難しい人が多くなることも考えていく必要があります。これからの同窓会発展のため会員の皆様からの建設的なご意見、ご提案をお待ちしております。皆様のお力を同窓会活動へぜひお貸しください。

同窓の絆



校長 加藤 知道

同窓会の皆様には、日頃より橘高校の教育活動の充実のため、多大なるご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

今年度も新型コロナウイルス感染症との戦いは続いていますが、対応は大きく変化していません。昨年度は全国一斉学校休業等の措置もあり、「とにかく危ないから中止」という空気がまん延してしまいました。しかし今年度は、「対策をしつかり実行しながら、できることをできる範囲でやろう」と変わってきました。たとえば、年度始めの「新入生歓迎会」では、実行委員会や生徒会、参加団体がさまざまな工夫をこらし、新入生に楽しんでもらえるような舞台を創ることができました。コロナ禍にあっても、生徒にとつてはかけがえのない高校生活です。これからも学校行事等を工夫しながら実施していきたいと思っています。一方、部活動においても、徐々に大会やコンクールなどが実施されるようになり、インターハイでは、弓道部が女子団体戦で全国三位という輝かしい成績を残しました。

今年度は対面での会議も徐々に再開されるようになり、名刺交換の場面では、「同窓生です」「私も福女(橘)の卒業です」と言っていたり、私も多く、二〇二〇年を超える歴史と同窓生の皆様も、思いを強く感じています。以前同僚だった方が、協力金の振り込み用紙に、「母校の校長先生になられ、うれしいうれしい限りです」と一筆を添えてくださり、繋がりをとても嬉しく感じました。

三月を迎え、新しい同窓生が学び舎を巣立ちました。皆様どうぞよろしくお願いたします。結びに、福女・橘の伝統と絆を受け継ぐ後輩たちが、更に素晴らしい橘文化を創造し、橘高校が今後ますます発展しますことを、心よりお祈りいたします。

令和3年度 福島県立橘高等学校同窓会 一般会計予算書

収入金額 2,374,822円 自 令和3年4月1日
支出金額 2,374,822円 至 令和4年3月31日

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 前年度予算額, 比較増減, 摘要. Total budget 2,374,822.

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 前年度予算額, 比較増減, 摘要. Total expenditure 2,374,822.

(執行にあたっては項目間の流用を認めるものとする)

令和2年度 福島県立橘高等学校同窓会 一般会計決算書

収入金額 2,348,767円 自 令和2年4月1日
支出金額 1,803,945円 至 令和3年3月31日
次期繰越金 544,822円

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 決算額, 比較増減, 摘要. Total budget 2,348,767.

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 決算額, 比較増減, 摘要. Total expenditure 1,803,945.

同窓会館たちばなセミナーハウス維持管理費報告

収入金額 8,643,713円
支出金額 177,370円
次期繰越金 8,466,343円

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 決算額, 比較増減, 摘要. Total budget 8,641,713.

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 決算額, 比較増減, 摘要. Total expenditure 8,641,713.

令和2年度同窓会協力金

収入金額 6,674,062円 自 令和2年4月1日
支出金額 3,154,894円 至 令和3年3月31日
次期繰越額 3,519,168円

Table with 3 columns: 項目, 金額, 摘要. Total budget 6,674,062.

Table with 3 columns: 項目, 金額, 摘要. Total expenditure 3,154,894.

令和2年度同窓会積立金

積立金 2,592,932円

令和2年度同窓会基金

積立基金 15,397,256円

監査いたしました結果、会計は適正に執行され、上記のとおり相違ないことを認めます。

令和3年4月7日 監査 菅野千代子

佐藤恵子



令和4年度(2022年) 総会のお知らせ

新型コロナウイルス感染状況から判断し、懇親会を中止し総会のみ行うことといたします。

と き

令和4年6月25日(土)
13:30~14:30

と ころ

橘高校 大会議室

当番学年

卒年に**2**のつく学年

参加者

当番学年代表各2名
評議員

「あなたの協力金で同窓会は支えられています」

同窓会協力金 納入のお願い

同窓会の皆様には、協力金のお振り込みありがとうございました。

協力金を大切にに使わせて頂き、会報発行を続けてまいりましたが、今年度は協力金のみでは会報の印刷代・送料が不足する事態となりました。

協力金 3,114,039円(1,705名)
会報発行費 3,137,613円(23,104通)

1口1,000円(以上)の
振り込みを!!

令和2年度同窓会協力金 年代別納入状況

卒業年度	人数	振込額
~昭和19年	35	128,000
昭和20年代	199	432,000
昭和30年代	539	1,013,380
昭和40年代	390	915,000
昭和50年代	261	493,000
昭和60年 ~平成9年	151	268,431
平成10年代	53	81,000
平成20年代~	77	108,000
合 計	1,705	3,438,811
		振込手数料 △324,772
協力金合計		3,114,039

(R2.3.16~R3.3.15)



令和3年度同窓会総会は、6月26日午後1時半から橘高校大会議室で来賓に加藤知道校長先生をお招きし開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響のため、昨年同様評議員、学年幹事代表32名が出席。坪井会長、校長先生からの挨拶をいただきました。薄井文子(S41年卒)・佐藤玲子(S51年卒)の両名が議長を務め、今年度の事業報告及び決算報告、次年度の事業計画及び予算について原案どおり承認されました。

総会報告

3	2	2	1	1	1	12	11	10	7	7	6	6	4	4	月
1	28	2	26	19	12	1	10	13	31	29	7	26	16	14	日
令和3年															
会計監査															
第1回役員会															
第1回評議員会及び第1回編集委員会															
第2回評議員会															
令和3年度同窓会総会															
第2回役員会及び第3回評議員会															
母校管弦楽部定期演奏会を後援															
母校合唱部定期演奏会を後援															
第3回役員会及び第4回評議員会															
第2回編集委員会															
第1回卒年に『のつく学年幹事会』															
第3回編集委員会															
第4回編集委員会															
令和4年															
第5回編集委員会															
第6回編集委員会															
第7回編集委員会															
第8回編集委員会															
新卒業生の同窓会入会歓迎会															
会報「同窓」第72号発行(全同窓生に配付)															

同窓会の主な行事 令和3年度

4	3	2	1	組
樋口 二見 竜多	茂木 理紗	小林 慎	志田 聖斗	横山 大輝
	菅野 和奈	後藤 翔	斎藤 遼空	鈴木 実結
			加藤 陽大	金子 凌大
			7	5
			6	組
			氏名	氏名

新学年幹事

- 寄贈品**
- 昭和31年卒 遠藤(黒羽)八重子 様 著書『歌集 陽だまり』一冊
 - 昭和36年卒 半澤 トシ 様 著書『堤中納言物語を楽しむ』一冊
 - 昭和47年卒 藤田(阿部)美智子 様 (追悼編集委員会事務局) 佐藤淑子追悼集『思春期の子どもたちと共に生きて』一冊
 - 昭和22年卒 大田(中田)妙子 様 金一万円
 - 昭和23年卒 半沢 八重 様 金三万円
 - 昭和45年卒 小林 芳子 様 金一万円
 - 昭和53年卒 芳賀(佐久間)千賀子 様 金十万円

寄付金・寄贈品紹介

- お慶び**
- 恩師 瑞宝小綾章受賞 杉 昭重 様
 - 恩師 第70回県文化功労賞受賞 菅野 正美 様
 - 昭和41年卒 草野(大泉)昌子 様 第74回県文学賞正賞(俳句部門)受賞
 - 昭和49年卒 大塚 真理 様 改組新第8回日展第5科書入選

全国大会出場おめでとう ～コロナ禍を乗り越えて～

◆ 全国大会出場 ◆

弓道部

▽令和3年度全国高等学校総合体育大会弓道競技大会
第66回全国高等学校弓道大会

女子団体

赤城 のい 長谷川結香
木村 蒼 大橋 真子
鹿野奈那子 福地 果歩

全国大会技能賞受賞

女子団体3位入賞

▽第40回全国高等学校弓道選抜大会

女子団体

齋藤 世奈 福地 果歩
大橋 真子 大竹 春奈



弓道部

水泳部

▽令和3年度全国高等学校体育大会水泳競技大会

女子100m平泳ぎ

曲山 陽菜



水泳部

囲碁部

▽第45回全国高等学校総合文化祭女子団体戦 青戸 柚月
▽第45回全国高校囲碁選手権全国大会

男子団体戦

三浦 大輔 遠藤 充
高木 智啓 富田 雄平
女子個人戦 青戸 柚月



囲碁部

フェンシング

▽令和3年度全国高等学校総合体育大会フェンシング競技大会
第67回全国高等学校フェンシング選手権大会

齋藤 有里



フェンシング部

山岳部

▽令和3年度全国高等学校総合体育大会登山大会
第65回全国高等学校登山大会

団体女子

鳥貫ももこ 渡辺 涼美
本田 千裕 佐々木涼帆

管弦楽部

▽第10回日本学校合奏コンクール
2021全国大会グランドコンテスト 高等学校部門



管弦楽部

写真提供 株式会社フォトライフ

激励金贈呈式

七月七日校長室にて全国大会出場者への激励金贈呈式が行われました。コロナ禍の中努力を重ねた全国大会出場者へ坪井有子会長から激励の言葉が送られ、激励金が贈呈されました。



三年生へのメッセージ

人気漫画「ワンピース」の仲間を示すシーンを、先輩方の写真で作りました。枚数は千を超えていたかもしれませんが、気が遠くなるような作業でしたが、先輩方が、仲間を思い出せるようにと心を込めて完成させました。

(在校生 談)



令和3年度 入試合格状況

(4月1日現在)

Table with columns for National University, Private University, and University. It lists various institutions and their admission statistics for the 2022 academic year.

※表中の数字は、「合格者数」である。
※表中の「過年度卒」欄の合格者数については、報告のあった人数を示している。

令和三年三月卒業生の
大学合格状況と進路状況

令和三年度入試は、大学入試改革初年度の年として「大学入試センター試験」が「大学入学共通テスト」に変わった年でした。教員、生徒とも三年間かけてこれらの改革に合わせた準備をしてきましたが、急な中止や延期が相次ぎ、さらには、新型コロナによる休校措置等で、さまざまな苦労をした学年でした。しかし、そのような多くの変化にも的確に対応し、大学入試に関しても別表の通りすばらしい実績を残し

ました。福島大学や福島県立医科大学(どちらも県内で一位の合格者数)など、地元大学への合格者を多く輩出したほか、東北大学を始めとした県外の大学にも多くの合格者を出すことができました。結果として国立大学の合格者数は一四九名となり、七クラス定員になった初年度であるにもかかわらず、例年通りの合格者数が出ました。また、私立大学においても果敢にチャレンジし、多くの合格者が出ました。
例年、小論文指導等では同窓会館を利用しています。このような環境にあることも進路実績の大きなプラス要因です。同窓会の皆さまにはこの場を借りて深く感謝申し上げます。(進路指導主事 平澤 貞博)

在校生へのエール

「FCからたち会」修学支援事業



FCからたち会(代表 斎藤ミヨ)は、福島市内で事業等を営んでいる旧福女卒業生から構成されています。設立二十周年(平成26年)を機に、在校生が未来の福島を担うべく存分に勉学に励む一助となるよう支援してききました(三年間一人30万円・返済不要)。
十年間を一区切りとして令和五年に終了します。この間、助産師、音楽家、教員、国際関係の仕事等々の希望に向かって進学し、それぞれに活躍しています。

八百板洋子文庫

福島市立図書館

福島市立図書館一階の「八百板洋子文庫」。本校昭和39年卒で児童文学者の八百板洋子さんの寄贈された児童図書271冊もとに設置され、充実した文庫と なっています。八百板さんが文を担当した『金の鳥 ブルガリアのむかしばなし』は、第二十五回日本絵本賞に選ばれています。



なつかしき恩師



「たちばなの香り」

松谷 彰 夫

平成6~14年
(福島市在住)

楽しい時間はすぐに過ぎ去るものです。この七十数年の私の時間もあつという間でした。とりわけ福女時代の八年間はそうでした。同時に、忘れ難い思い出があふれ出てくるのも福女時代です。

当時の卒業生にとっても、新入生歓迎会・文化祭・三年生を送る会の三本柱からなる生徒会行事は、きつと忘れたいものとなっていることでしょう。

私は「福女文化」と呼ばれていた生徒会行事のファンでした。何よりも、校内を忙しく駆け巡って準備にあたっていた生徒会本部役員、実行委員、その呼びかけに応じて切磋琢磨する福女生の姿に魅了されていました。週五日制が始まり、授業時数の確保が第一、この声が高まる中でした。

卒業生・同窓会やPTAをも巻き込み、六〇〇余編の作詞、一四〇余編の作曲の応募作品から生み出された、百周年記念歌「マイロード」は、見事でした。そこには「たちばなの香り」が漂っていました。

同じ年の公開文化祭準備の時でした。朝の連絡を手短かに

済ませ、教室の後ろ隅に立つ私の耳に、つぶやくような声が確かに聞こえたのです。「モモ」をシナリオ化し、生徒自身が作詞・作曲した主題歌を全員で練習し終えた時です。「ああ、わたし、今、青春しているんだ。青春……」。大賞を受賞した作品は、クラス版CDとなりました。

四年後、女子校最後の公開文化祭でした。日頃、歴史と伝統を語るなら、戦前の五十年、とりわけ空襲が続く中、

横須賀海軍工廠へ動員された福島高女生たちの歴史に学ばなければ、と口にする事がありました。その体験談を直接聞きだし、先輩たちに背中を押されながら見事なまでの朗読劇を上演し、また三〇〇ページに及ぶ本に仕上げたのも福女生でした。

その機縁から、退職後の私は、「高女時代にできなかった勉強をした」との願いで、八十歳のおばあちゃんたち十数名と、五年間にわたって、日本近現代史の学びをしました。反知性主義がまかり通る今日、「たちばなの香り」が放たれ続くことを願っています。

マイドリーム・マイロード

冬 董

草野(大泉)昌子(昭和41年卒)

飯坂のちゃんこちゃんこにも淑気



今年正月は 志津久
息子達に誘われて、久々に飯坂温泉に一泊した。

正月のちゃんこちゃんこ(石段)は雪の中、降りる人も無く静かだった。思わず、飯坂小唄の一節を口ずさむ私に、孫達はきよんとしていた。

一年生の時の隣の席は大きな温泉旅館の娘さんで、板前さんが作る色どりも鮮やかなお弁当が眩しかった。その頃の福女は、図書館や小さな部室も皆木造で、購買部へ行く渡り廊下は、冬にはよく雪が積もっていた。私達はベギー菓山の「学生時代」そのままに、近くの教会に通っては、まじめに牧師さんのお話を聞き、「神はいるのか?」と議論しあった。

でもサルトルだボーポワールだと言っていた割には、からたちの垣根をかきわけて買いに行ったホカホカのロッケや、揚げクリームパンや特別な日の日米商会の

シュークリームの方が懐かしいのだから、乙女心は解らない。仏前の裏白乾くころひとり

花谷和子
冬晴れの跨線橋子らを帰す橋

志津久

今になると、早朝ガタガタと揺られながら通った崖の上の道も、カバンに積もった埃さえも、なんだか懐かしい。私の人生で、一番本を読み、語り合い、夢を見た三年間だったから……。

手すりに乗らぬ未来よ冬董
志津久

本当に先の読めない日々だけれど、福女卒という誇りに励まされながらひとりを生きようと思う。

草野昌子プロフィール

大谷大学文学部卒業
「俳句結社小窓座(翅の会)に所属
高野ムツオに師事
二〇二二年泉文学賞正賞(俳句部門)受賞
俳号 志津久

柔軟な発想のもと

小野(今泉)光代(昭和60年卒)



私は高校三年生の時に、突然体調不良で二回も入院し、退院

後も休みが多く、最終学年に思いもよらぬことで、気持ちが落ち込みがちでした。しかし、明るいクラスメイトと先生のお陰で、無事卒業することができました。卒業間近には、とても楽しい思い出もたくさんできました。

一つめは、社会科学の角田先生の最後の授業で、全員が数学の教科書を開き、さらに黒板に数人が宿題の数式をビッシリ書き、入ってきた先生を驚かす、というものでした。何も知らない先生は、時間割を間違えたと思って戻っていき、いたずらは大成功。その後、先生と生徒みんなで大笑いしました。

二つめは、白石先生の物理の最後の授業で、今度は先生にドッキリ実験を仕掛けられました。先生と生徒全員が手を繋ぎ教室に大きな輪を作り、巨大な静電気発生装置に先生がアースをすると、大きな衝撃波が全員を駆け抜け、皆ビククリして悲鳴を上げて大騒ぎ。まさに、福女の「でんじろう先生」でした。

そして、担任の本多先生の最後の国語の授業では、初めてハンゲル文字を教わりました。当時はただただ珍しく、韓流ブームでこんなにハンゲルが身近になるとは思っていませんでした。

このような型にはまらない思い

学年だより

敷島の海、いまなお藍く

佐藤(山田)貞子(昭和21年卒)

昭和十七年入学の私達は戦争中ということで勤労奉仕、軍手作り、競馬場開墾等の作業がありました。雪中行事と称して、制服のまま信夫山に登らされたこともあり、賀市の海軍工廠に学徒動員され、お国の為にと一生懸命働きました。食糧不足による空腹や、空襲に堪えながら、でも最終により全員無事帰郷、福女を卒業することができました。卒業四十年後、修学旅行と称して、再び横須賀を訪れ、その後「敷島の海、いまなお藍く」という文集を作りました。その中からとり上げ「征け学徒よ」という朗読集を作り、学校や各種団体などで戦争体験の朗読をして回りました。八十五歳の時から私達藍の会は月一回の昼食会を始め、話し合いを楽しんできました。昨年二月からコロナの為中止になってしまいました。私達は今でも交流を続けています。



長生きしますと、戦争、震災、コロナなど大変なことに遭うものですね。負けずに頑張らなければ。

なつかしき母校

小野崎(武山)由美子(昭和31年卒)

六月二十六日(土)「令和三年度同窓会総会」に出席。卒年に一のつく学年が当番、事なく終了。会議室から外を眺めると、校庭や信夫山は頭の中の景色と大分違う。あの懐かしき母校福女。胸キュンになるかと思ったがあまりならず。それはそうである。橘高、男女共学、新校舎。あの木造校舎がやたらと懐かしい。バスケで汗した体育館、私の「青春」、今八十四歳の「生春」これも時代だなあと…。ハツラツとした橘高現役生に未来を感じながら、私の母校は遠くなりにけり…。

懐かしい思い出

宮川(山田)ミヨ(昭和41年卒)

福女同窓会の仲間入りをして、早や五十六年になります。私達は戦後ベビーブームの真っ只中に生まれ、同学年は一クラス五十数名で十組編成でした。「狭いながらも楽しい我が教室」で、明朗で活発な仲間達と、時には合唱をしたり賑やかな学校生活を送っていました。

気が致します。

忘れられない思い出は、昭和三十九年(東京オリピック開催の年)関西方面への修学旅行です。中でも奈良薬師寺の有名高僧によるユーモア溢れるご説法の貴重な時間です。夏制服を着用したピュアそのままの少女達が、高僧を囲んで大笑いしている写真が残っております。同級会などでは、今でも大いに盛り上がる話題の一つです。思い出は尽きませんが、次回同窓会は穏やかな日常に戻り、一人でも多くの方と笑顔で元気に再会できることを祈っております。

「高校時代」の出会いに感謝

佐藤(渡辺)玲子(昭和51年卒)

「高校時代」ですぐに思い出すのは？と同級生に聞きました。彼女は斎藤和也先生が日本史の授業で「歴史は、年号と出来事だけを覚えるのではなく、人間がどのように生きてきたかを知ることだ」と言われたこと、と答えました。

「高校時代」と問われ、和也先生の薫陶を思い出し「自分が生きてきた時間を思うと、失敗もあり、恥ずかしくなることもあるけれど、それでもその時その時が輝いていて、楽しかったこと、嬉しかったこともあって、自分の人生が愛おしくなる」と、岐路に立つたび恩師の言葉を羅針盤にしてください。歴史的とも言えるコロナ禍の今、私も改めてかみしめています。

こんな深い話を語れる「高校時代」を、福女で過ごせたことは誇りです。卒業から半世紀近く、すでに歴史の一部になりつつある私たち、この出会いに今、感謝の思いで一杯です。

平時への回復を願って

狗飼(石幡)美和(昭和61年卒)

前回当番幹事だった十年前は東日本大震災で、総会は秋に延期して行われました。原発の事故もあり、お子さんの健康を心配して他県へ避難された方など多いで、同期の参加者は少なかつたように記憶しています。

そして今回はコロナ禍で幹事のみ出席の総会でした。校長先生から昨年度の修学旅行が中止となつたことをお聞きしましたが、今年度は学校行事が例年通り実施できますよう願っております。

次回当番となる十年後は、時間的な余裕も出てくるはず。連絡がとれなくなっている方々も多いのですが、総会や懇親会への参加を機に旧交を温め、友や師との出会いを与えてくれた母校に対し、これから自分たちができることについて考えていきたいと思えます。

再会を願って…

高守 恵(平成元年卒)

東日本大震災から十年、平成最初の卒業生である私達の学年の同窓会の当番が巡ってきました。

不惑の年となり、いよいよ同窓会のお手伝いの年と思っていた矢先の震災：勤務する二本松市の避難所で配られていた地方紙で同窓会開催を知り、次こそはお役に立ちたいと思っていたところ、このコロナ騒動です。卒業生には医療に従事されている方も多くいらつしやることと思います。皆様のお働きに心から感謝申し上げます。この会報が発行される頃には、事態が少しでも好転していることを願って止みません。

コロナ禍により令和二年から二年連続で母校での総会のみとなつた同窓会ですが、そこでお目にかかったお姉様方の咲き誇る笑顔、若輩の私にドアを開けてくださるお気遣いなど、福女生らしさを感じ、嬉しく、高校時代を懐かしく思い出しました。

十年後、私達の代は仕事や子育てから解放される頃です。お一人でも多くの同級生とゆつくり会えたいですね、と同じく学年幹事の石井(旧姓長谷川)智子さんとお話して、三十年振りの母校をあとにしました。

あとがき

◎ 昨年に引き続き、新型コロナ感染拡大が収まらないなかでの編集作業となりました。これまでのような活動や行事の開催ができない状況ではありますが、この会報が同窓生の皆様をつないでいく一助となればと願っております。

◎ お忙しいなか、ご寄稿ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。